

## ムグリとクリ

### 1. ジムグリ



ジムグリ

鱗に光沢があり、地味で落ち着いた色彩をしています。成体は背側が茶褐色で小さな黒点が散在しており、腹面は写真のようにわずかに見える黒と白のチェック柄となっています。幼蛇は成体と全く異なる色彩で、赤味の強い地色に黒い帯状に見える斑紋がきれいです。

北海道など寒い地方では、赤味の強いアカジムグリと呼ばれる個体が出現します。打吹山にも写真のような赤い個体がありました。黒い色素が形成されないためか、腹面は白でした。

出会うことの少ない無毒のヘビですが、頂上には大型の個体があります。暑さを嫌うといわれ、夏に出会うことがなく、他のヘビが活動しなくなるこの時期に見ることが多くなります。

「地潜り」といわれる由来は、落ち葉の下で活動したり、ネズミの巣穴に入る習性から名づけられました。ネズミの仔を好むことから、打吹山では地下に巣穴を持つヒメネズミやアカネズミ、モグラの仲間のヒミズが捕食対象になると思われます。

シマヘビやヤマカガシのような背側の模様はなく一色ですが、



アカジムグリ

### 2. ツチグリ



外皮を開いたツチグリ

ショウロの仲間なので、ホコリタケと同様に、若くて内部が白い間は食用にする地方もあるそうです。あまり食べる気がしません。胞子が形成されると中は黒茶色になります。遊歩道脇の土の崖や道ばたに集まって生えています。見つけやすいのは、名前の特徴を示す星形になったときです。「土」に生える「栗」にみたて、外皮を栗のイガ、胞子の入った袋が栗の実ということになります。

持ち帰って机の上に置いておけば湿度計の役割にもなりますが、胞子が完全に出てしまったものがよいでしょう。

外皮は成熟すると写真のように6～10の足をもつヒトデ状に裂けます。この外皮は2層になっていて、湿度の高いときには内側の層が吸水し、長さが伸びます。その結果、外層の長さと同層の長さが同じとなって外皮が平坦になり開きます。乾燥すると内層の長さが短くなるため丸まってしまうことから、胞子の入った袋を押しえつけ、袋の先から胞子を飛ばします。遠くまで胞子を飛ばす知恵です。

外皮は成熟すると写真のように6～10の足をもつヒトデ状に裂



丸まったツチグリ

(倉吉博物館専門委員 國本洗紀 2015)